

(平成25年12月17日)

第3回 赤松小三郎研究会のご報告

日時 : H25. 12. 17 (火) 18:30~20:30
場所 : 東京・文京シビックセンター 4F (シルバーセンター) 会議室B
出席者 : 20名

< 内容 >

1. 配布資料

- (資料1) 「赤松小三郎・山本覚馬・坂本龍馬の行動履歴」 石川浩さん作成
- (資料2) 「西洋事情と赤松小三郎」 滝澤進さん作成
- (資料3) 「西洋事情 初版」福沢諭吉全集 第1巻より抜粋
- (資料4) パンフレット「近代日本を築いた先覚者 赤松小三郎」上田西ロータリクラブ作成
- (資料5) 虞美人草「山本覚馬と同志の赤松小三郎」 丸山瑛一さん寄稿
- (資料6) 第2回赤松小三郎研究会のご報告

2. 石川浩さんによる、「赤松小三郎・山本覚馬・坂本龍馬の行動履歴」の解説

- ・山本覚馬に関しては青山霞村「山本覚馬伝」は1951年版をベースにした。
- ・嵯峨根良吉は謎の人物である。(嵯峨根と赤松は同じ内容の建白書を別々に当時の薩摩藩主島津忠義へ上申している。不思議だ)
- ・龍馬の遺品の中に「赤本」があった。そのことは、小三郎が龍馬に上呈したと推察され、龍馬と小三郎は面識があったと思える。
- ・桐野作人氏(鹿児島出身の歴史作家)の著書に小三郎を薩摩塾へ招いた人は野津道貫であるという記述がある。(勿論、西郷や小松帯刀などの指示はあったはず)
- ・山本覚馬は維新以後、京都府顧問として、産業育成、小中学校の設立、女紅場の設立、博覧会の実施など京都の復興と近代化を明治政府に一步先んじて行った。
- ・インターネットでキーワード<“西洋事情”&“福沢諭吉”&“赤松小三郎”>で検索すると作者は不明だが面白い内容の記事がある。

3. 滝澤進さんによる、「西洋事情と赤松小三郎」

- ・「西洋事情」には当時の海外の事情が詳しく紹介されている。また当時の大ベストセラーで、「初編」は小三郎の建白七策提言の約1年前に刊行されており小三郎も読んでいた可能性が高い。
- ・小三郎の「建白七策」他の提言が彼の全くの「独創」でないとしても、古今東西を問わず政策提言等にあたり、海外事情を含めその時点で得られるあらゆる情報・知

識等を基に検討を行うのは至極当然である。

- ・小三郎が二院制議会をはじめ日本の将来像を他に先駆けて**具体的かつ体系的な提言**として打ち出した思想面での「先見性」、及びそれが明治政府の施策に与えた具体的な政治的影響を考慮すると、小三郎の歴史的な価値・評価はいささかも損ねるものではない。

(以下、参加者の意見)

- ・幕末維新における「通史」というのは「勝者である薩長の歴史」ということではないのか。幕末維新史は会津藩を含め書き直されるべき。「山本覚馬」は今年のNHK大河ドラマ「八重の桜」がきっかけで今後大いに見直されるだろう。
- ・小三郎についても、最近歴史学者などの間でも見直され始めているが、そもそも彼に関する史料が不足している面が大いにある。例えば上田市立博物館にたくさん眠っている関連の古文書の解読などは上田市が予算を付けてでも早急を実施すべきで、我々が上田市に働きかける必要あり。

以上

赤松小三郎研究会事務局
小山平六（62期）
荻原 貴（79期）

次回開催予定：2014年2月18日（火）18：30～20：30

内容（予定）：

- 「知野文哉著 「坂本龍馬の誕生より」」・・・岡田渉さん
- 「年表（幕末の政治情勢、上田藩の動きをからめて）」・・・宮原安春さん